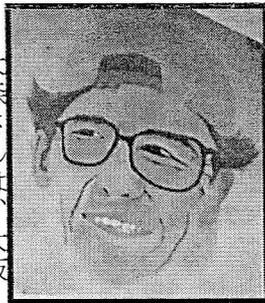


かりはゆく

第167号
2016年4月12日

大森昌也さん を追悼して



大森さんは、大阪
市大・社会学同での活
動、労働運動、RG、
そして朝来(あさこ)二
郡和田山町朝日での
アース農場の開拓と
大きな足跡を残しな
がら歩んで来られま
した。田宮さんとは
市大時代に親交深く、
九〇年代に手紙をや

りとりでできるようになつた時は、田宮さんも非常に喜んでいました。田宮さんの長女が帰国後すぐに柳田健さんと共に訪ねたのも、そういう意味があつたと思ひます。数年前には、帰国した家族が訪ね、交流をもつことができませんでした。これまで、TVで放映されたビデオや機関紙をつうじて、息子さん、娘さんが遅しく育っていることも知りました。またアース農場を通じて数多くの人々に大きな影響を与えたことは広く人の知るところです。

私自身の想い出としては、六七年大阪の「上田歯車」のストライキに動員されて行つた時のことです。前夜、近くの家に泊まり込んだのですが、そこに背中を見せたままの男の人がいました。一緒に

いた井尻輝雄君が、「この人はすごい人なんだぞ」と耳でささやきました。この人が恐らく大森さんだつたと思ひます。当時、大阪で労働運動をおこなつていた市大出身の人の中では大森さんがもっとも有名でした。私は時々、大森さんが爆弾闘争を行つたRGの後、つまり出獄後、なぜ兵庫の山奥に入り、それも普通の農業ではなく山間農業を営まれていったのか、その理由について考えます。それは、現代資本主義社会を拒絶した強烈な生き方だつたのではないでしようか。学生運動、労働運動、RGと山間農業に貫くものがあるとするれば、そう思えるのです。大森さんは丁寧に説明する人でなく、そういうことを言うわけではありません。

自分の行動、生き方で考え方を示す人だと思ひます。まさに頑固一徹の人だつたと思ひます。

大森さんの壮絶な生き方は多くの人々に引き継がれていくことでしょう。

先輩のその志を胸に刻み、私も闘いを続けていきます。

長い間、ご苦労様でした。どうか疲れたいを休めてください。

ピョンヤン かりの会
赤木志郎

・二〇一六年三月二四日、上顎洞ガンのため逝去、享年七四歳。
・四月九日、アース農場にて、お別れ会が行われました。

「ごくささやかなお別れ会と思つたら、一〇〇人近い人が集まつた。驚いた。あの丹波の山奥で三〇年過ごした大森の行為は多くの人を感動させたようだ。」
・ (柳田健氏より)